

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 コミュニカ学院

1 事業の趣旨・目的

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
2009 年 8 月 12 日 10 : 00 ~ 12:00	コミュニカ 学院	青木直子 松原マリナ 長嶋昭親 湯口 恵 奥田純子 竹田悦子 丸山友子	平成 21 年度「学習ア ドバイザー養成講座」 に関する内容・スケジ ュール・広報等につい て	①「学習アドバイザー養成講 座」実施にあたり、内容確認・ 意見交換を行った。 ②開催スケジュール及び担当 者、開催場所の確認を行い、 スケジュール、場所、役割分 担を確定した。参加者の決定 はメール等で行うこととした。 ③広報スケジュール、チラシ の内容・表現等の検討と広報 先の検討を行い、広報先も確 定した。
2009 年 12 月 23 日 10 : 00 ~ 12:00	コミュニカ 学院	青木直子 松原マリナ 長嶋昭親 湯口 恵 奥田純子 竹田悦子 丸山友子	日本語教室の開講に ついてスケジュール進 捗状況およびについ て	① スケジュール進捗状況の 報告を行った。 ② 今後のスケジュールの再 確認を行い、3 月 15 日を講 座終了日とすることを確認し た。
2010 年 3 月 14 日 10 : 00 ~ 12:00	コミュニカ 学院	青木直子 松原マリナ 長嶋昭親 湯口 恵	日本語教室の開催状 況及び評価会	① 講座の出席状況、講習内 容の報告を行った。 ② 最終回は残しているが、 開催した講座の振り返り及び

		奥田純子 竹田悦子 丸山友子		評価を行い、今後に向け課題をまとめた。 ③ 今後も活動の継続を行うことを確認し、次年度以降の活動案を策定した。
--	--	----------------------	--	--

【写真】



3 研修講座の内容について

- (1) 研修講座名 学習アドバイザー養成講座 A、B
- (2) 研修の目標 学習者が学習の目的、目標、内容、計画、方法を決定し、それを実行、評価することを助ける「学習アドバイジング」の実践力を養成すること。
- (3) 受講者の総数 A:6人 B:9人
- (4) 開催時間数(回数) 28 時間 (14 回)
- (5) 参加対象者の要件
 - ・2年以上のボランティアとしての日本語指導の経験者
 - ・14回の講座と実習の全てに出席できる方
- (6) 受講者の募集方法

連携している地域・他団体(兵庫ボランティアネット、神戸定住外国人支援センター、NGO ベトナム in KOBE、他)へチラシを送付し、募集。送付方法は郵送、メール、他団体がおこなっているボランティアを対象とした講座に出向いて直接配布などした。チラシは添付資料を参照のこと。
- (7) 研修会場
 - ア 講義 コミュニカ学院
 - イ 実習 セルフアクセスセンター(コミュニカ学院内)
- (8) 使用した教材・リソース

講師作成ハンドアウト、各種日本語教材等、Website の学習ツール

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
10月19日 A13:00～15:00 B15:00～17:00	学習アドバイザー養成講座 第1回(講義) ・オリエンテーション ・アドバイジングのキーワードと『出来すリスト』	大阪大学大学院教授 青木直子先生	A6名 B9名
10月26日 A13:00～15:00 B15:00～17:00	学習アドバイザー養成講座 第2回(講義) ・セルフアクセス・センターとは ・アドバイザーとしての目標達成の方法	同上	A5名 B9名
11月9日 A13:00～15:00 B15:00～17:00	学習アドバイザー養成講座 第3回(講義) ・アドバイジングが概説	同上	A6名 B9名
11月16日 A13:00～15:00 B15:00～17:00	学習アドバイザー養成講座 第4回(講義) ・ツールとしての日本語ポートフォリオ	同上	A6名 B9名
11月30日 A13:00～15:00 B15:00～17:00	学習アドバイザー養成講座 第5回(講義) ・アドバイザーの話し方と必要な知識	同上	A4名 B8名
12月7日 A13:00～15:00 B15:00～17:00	学習アドバイザー養成講座 第6回(講義) ・アドバイザーとしての知識を増やす	同上	A5名 B9名
2月1日 A13:00～15:00 B15:00～17:00	学習アドバイザー養成講座 第7回(講義) ・気づきの共有—この学びをどう活かすか	同上	A6名 B9名
11月2日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座 A 実習	同上	A6名

11月9日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座B実習	同上	B6名
11月16日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座AB実習	同上	A3名 B3名
11月30日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座AB実習	同上	A3名 B3名
12月7日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座B実習	同上	B6名
12月10日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座A実習	同上	A6名
12月14日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座B実習	同上	B6名
12月17日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座AB実習	同上	A2名 B3名
12月21日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座AB実習	同上	A3名 B3名
1月7日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座B実習	同上	B5名
1月14日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座A実習	同上	A4名
1月18日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座B実習	同上	B6名
1月25日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座B実習	同上	B6名
1月28日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座B実習	同上	B6名
2月1日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座A実習(グループⅡ)	同上	A5名
2月8日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座A実習	同上	A5名
2月15日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座A実習	同上	A6名
2月22日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座B実習	同上	B3名

3月8日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座B実習	同上	B2名
3月15日 13:00～15:00	学習アドバイザー養成講座B実習	同上	B3名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

アドバイザー養成講座アンケートまとめ

1) この講座の良かったところは何ですか。

- ・ 他所ではやっていない講座のテーマで、新しい外国語の教え方であること。毎回新しい発見があったこと。
- ・ 「アドバイジング」という私にとって新しいスキルを備える足がかりができた。知識と実習の両方を得ることができ、特に実習に関しては、青木先生のコメントをいただけたのはとても有意義だった。
- ・ アドバイザーという考えがこれまで思いつかなかったことでその考え方に出会えた点。先生やボランティアで活動している方々、学習者をはじめとして、いろいろな方と出会えた点。
- ・ アドバイザー同士気楽に話し合える。文書整理などを進んで引き受けた方がいた。このような方が活動を牽引してくださる。
- ・ 教室での学習支援のやり方を振り返ることもでき、学習者本人が望む形、やり方をしていくことが大切。特に好きなもの(アニメ、ビデオ)で楽しく勉強できたらベストだ。
- ・ 今まで必要性を感じていたことを具体的に学べ、経験できたこと。
- ・ 実習も含めた講座だったので、すぐ実践することができた。
- ・

2) もう一度この講座をするとしたら、変えたほうがよいところがありますか。

- ・ 実習しながら、同時に教えてもらえる日も作ってほしい
- ・ 実習に入ってから、特にセンターの設備を整えるのに時間がかかったので、途中段階では、もう少し効率的にできないものかと思った。しかし、終わってみると、途中のゴタゴタがいろいろ考えるきっかけになったとも思え、特に変える点はないと思う。
- ・ 実習のための準備時間がもっとあればよかった(実習が始まってから出ないと分からないこともあったが、コピーすべきもの、ストックの保存方法など、メールで伝えきれないこともあったと思うので)。
- ・ 実習期間の間に数回集まる日があれば、アドバイザー間で情報交換などできたと思います。
- ・ セルフ・アクセス・センターとは何かをもう少し丁寧に説明してはどうでしょうか？また自律

学習の大切さも伝えられると思う。マッチングする学習者を前もって伝えていただいたら、個人ファイルを見て、大まかに基本的な情報が得られる。

- ・ アドバイジングをはじめて 3 回くらいは段取りを考えるだけで頭がいっぱい。レベルチェックをやりながら学生の望んでいることを察知して、学生が満足の行く目標を立てるためにはせめて 5,6 人はやってみたい。
- ・ 実際のアドバイジングの良い例？など映像を見ながらシェアする時間も取り入れたらいい。
- ・ 実習をもっと増やすこと
- ・

3) この講座で学んだことは何ですか。

- ・ 学習者自身に考えてもらうことの大切さ。
- ・ アドバイザーとは、日本語学習支援以上に、相手を良く見なければならぬものだということがわかった。知っていることを思いっきり出せない、でも多くを知らなければいけない。とっても大変な役割だということが分かりかけた。
- ・ 学習者と対等に話すこと、相手の話を良く聞くこと、今までやっているつもりで実はできていなかったことがよくわかった。
- ・ 自分のスキルの怪しさ、あたまでわかっていても実行するとうまくいかない場合がある。学習者の文化的資質がはっきりニーズや目標を挙げていうことを当然とすることもあれば、逆に少し控えめになる学習者もいた。
- ・ 勉強は少しずつ積み重ねていくもの、アドバイジングによって学生が学ぶということを自分が積み重ねていくものと同じ。
- ・ 自分の手法でマンネリ化していたものがリフレッシュされた。
- ・ 自分自身、具体的に見つめなおすきっかけができた。
- ・ 自分の考えを人に押し付けない、人の話をじっくり真って聞くこと。分かっていたつもりだったができていなかった。

4) もう一度この講座を受けるとしたら、自分の取り組み方で変えたいことはありますか。

- ・ 自分の行っている日本語教室での具体的な応用も考えてみたい。
- ・ 今回の実習では毎回の振り返りと簡単にメモし、その後 ML で流した。アドバイスをいただく前に、次の実習をすることになってしまった。それでは、利用者にいいアドバイジングもできなくなってしまうので、次は気をつけたい。
- ・ 他の人の反省も自分のものとして取り入れること、例えばみなさんのメールでの報告を自分で整理してまとめて共有する。その後、講座で話し合う(話題を提供する)。
- ・ よく集中して講師の方の話を聞き、さらにもう一度考えてみる。
- ・ 「教えない」ことを頭において私が一言、相談者が 1~2 話すことに取り組みたい。
- ・ リソースの知識を増やす。

- ・ 準備、報告書作成などもっとスピード感を持つ。
- ・ レコーダーを聞きながらの振り返りにじっくり時間をかける。聞くことによって、いろいろ気づかされることが出てくるので。

5) 全体として満足していますか。なぜですか。

- ・ 満足している。新しいテーマの取り組みであり、応用範囲は広いと思うため。
- ・ ほぼ満足です。わたしにとってアドバイジングが新しい試みだったので、いろいろ辛いながらも楽しくでき、新しい知識も増えたので。
- ・ 満足しています。もう少し講義で例えばポートフォリオの概念と内容(項目)についてきければよかった(自分で勉強できますが)。学習者と項目チェックのときに分からない部分があったので。
- ・ 満足しています。不慣れなアドバイジングを青木先生は今根気よく付き合ってくださいました。
- ・ 満足しています。セルフアクセスセンターは遠いものかも知れないが、学習者にとって憩いの場、自由に学べる場の必要性がわかった。
- ・ 大変満足しています。経験、個性共に素晴らしい仲間に恵まれて行えた事。新しい手法、情報などが学べたこと。
- ・ はい、満足しています。アドバイザー講座は初めてで、アドバイジングということを知ることができた。受付に座って情報を伝えるだけのものではない、ということが分かった。日本語関係だけに終わらず日常生活上でも通じるところがあることに気づくことができた。

② 実施主体からの研修内容結果評価

本講座は、受講生の満足度も高く、良好な評価が得られたと思う。講師の青木直子氏によるきめ細かい実習のフォローにより、また、受講生もそれに応え丁寧に実習を行ったことで、各自に気づきがあり、実践知が培われたと考える。

実習のマッチング、通訳者は事前に双方に情報を流すことが今後は重要だと気づいた。また、実習のVTR等で全員で振り返る時間を作るなど、実習そのものを素材にすることも検討が必要である。

リソースセンターの整備や改善の実習では、受講生がリソースセンターの整備に大きな力となり、またそれがアドバイザーとしての自己研修となったことが有益であった。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

今後は、今回修了生たちに、アドバイザーとして活躍してもらい、支援体制の主軸としたい。また、様々な日本語教室にも広報誌、アドバイザーに各所で活躍してもらえる場や必要とされている場の情報を提供し、外国人のサポート体制の強化を図りたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

セルフアクセス・センターを設置した日本語教室との連携で、実習の場、セルフアクセス・センターの整備体験をしてもらった。

② 研修後の人材活用

それぞれが、現在活動しているボランティア教室で今後、アドバイジングの実施を予定している。また、各所の教室にアドバイジングについて広報し、必要とするところの情報を受講生に流し、活動の場を広げてもらいたい。

(12) 今後の課題

アドバイジング、アドバイザー、セルフアクセス・センターはまだ、地域の日本語教室ではなじみが薄い。まず、これらを広く知ってもらうことが必要である。周辺地域だけではなく、県外等へも広報をしていくことも必要である。

さらに、アドバイジングをできるアドバイザーはまだまだ少ない。今後、一人でも多く、地域で活躍できるアドバイザーを送り出すこと、そのためには、先の研修内容結果の評価を踏まえ、より良質の養成講座を継続していくことを今後の課題とする。